

野口益代先生・丹野眞智俊先生・林 忠幸先生

ご退任記念号に寄せて

児童教育学科長 山 本 裕 之

教育専攻科長 櫻 本 明 美

この度、2007年3月をもって、野口先生、丹野先生、林先生が退任されることとなりました。本学科において中心的な役割を担ってこられた先生方であり、寂しさも一入であります。また、各方面で多くの実績を残していただきましたので、それを受け継いで今後活かすべく気持ちを引き締めております。18歳人口の激減から、大学全入時代を迎え、本学も大変厳しい状況におかれている時期だけに、今後の児童教育学科の将来について、よりいっそうの責任の重さを痛感しています。

野口先生は、1974年に美術・美術教育担当教員として本学に着任されました。その温和で誠実なお人柄と、素晴らしい感性をお持ちの先生は、33年間に渡り芸術活動に、学生の教育活動に大変熱心に取り組まれ、学生から確固たる信頼を得ておられました。彫刻を専門とされ、その研究成果である芸術作品の代表的なものとしては、須磨寺に納められた木彫「愛染明王」、本学4号館前の中庭に展示されているブロンズ像「四季の樹」、学生会館ロビーに展示されている木彫「翔」、図書館ロビーに展示されている木彫「花下草上」などが挙げられます。どの作品も大作で、迸る生命力が感じられる作品です。

また、特筆される先生が担当された授業科目として、「美の見方・考え方」や「海外芸術研修」が挙げられます。どちらも日本やイタリアの文化・芸術を実地に鑑賞する科目で、履修した学生たちは、この鑑賞を通して豊かな感性を培い、ものを観る眼を深化させています。さらに、先生は近年、演習授業において、美術教育のみならず食育や環境問題なども取り上げられ、環境教育の大切さを訴えていらっしゃいました。先生が退職されても、先生の大作は本学に永遠に残ります。改めて先生の功績に感謝申し上げるしだいです。

丹野先生は、2002年の本学大学院文学研究科（修士課程）創設時に、大学院文学研究科（修士課程）教育学専攻専任教授、及び文学部児童教育学科教授として着任されました。ご専門は心理学で、「学習心理学」、「発達心理学」、「教育心理学」等の科目を担当。前任校の佐賀大学教育学部では、講師・助教授・教授として29年間在籍され、教育学部附属幼稚園長、教育学部附属中学校長、教育学部附属教育実践研究指導センター長なども歴任されておられました。現在は、佐賀大学名誉教授でもいらっしゃいます。著書・学術論文等の数多くの業績を残してお

られ、最近は「ことばの発達研究にとって格好の素材であるかもしれない日本語オノマトペ《擬音語・擬態語》」について心理学的研究をしておられます。

また、本学では教育専攻科長、人権教育研究所所長も務められ、教育専攻科の発展と人権教育の推進にご尽力いただきました。さらに、平成17年度教員養成 GP 採択プロジェクト「島嶼部等宿泊体験型教育実習プロジェクト」の申請統括責任者として、申請全般、参観実習実施、フォーラム（参観実習報告会）総括、実習事前指導、報告書作成、実習訪問指導、ホームページ上での報告、本実習報告会など、すべてを手がけられた、本学の教員養成に対する功績には計り知れないものがあります。今後も、先生が中心となって推し進められたこのプロジェクトをさらに発展させて行かねばと思っております。

林先生は、丹野先生と同じく2002年の本学大学院文学研究科（修士課程）開設時に、大学院文学研究科（修士課程）教育学専攻主任、及び文学部児童教育学科教授として着任されました。ご専門は教育学で、「教育原理」、「教育哲学」、「道徳教育の研究」等の科目を担当。前任校の福岡教育大学では、助手・講師・助教授・教授として34年間在籍され、教育大学附属久留米小学校校長、教育大学附属学校部長、教育大学第四部学部主事なども歴任されておられました。現在は、福岡教育大学名誉教授でもいらっしゃいます。著書・学術論文等の数多くの業績を残しておられ、最近では20世紀初頭ドイツにおける科学的教育学の形成過程における研究、現代教育への人間学的アプローチ、道徳教育の人間学的基礎づけ・道徳の授業構成に関する研究について取り組んでおられます。

また、本学では大学院文学研究科（修士課程）教育学専攻主任として、大学院創設の中心的な役割を担っていただき、大学院の発展に寄与したその功績には著しいものがあります。

ここに、三人の先生方にご退任記念号を上梓し、先生方の学生に対する情熱溢れる教育と研究に心より感謝申し上げますとともに、今後の益々のご健勝をお祈り申し上げます。